

南京都病院ニュース



National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News



新年明けまして おめでとうございます

院長 宮野前 健

新しい年を皆様、どのように迎えられたでしょうか。新年が来るたびに、気持ちをリセット・切り替え（忘れたことを忘れ）て、この一年・病院の将来を見据えるようにしています。しかし医療を取り巻く環境には厳しいものがあります。病床機能区分をはじめとする医療行政の方針も定かとは言えません。モヤモヤしたそんな時には、冬の晴れ渡った青空を見上げ、深呼吸する事にしています。

古くなった一般病棟を集約して西病棟が竣工し3年が経ち、すっかり病院の風景に溶け込んでいます。今年は病院全体の環境改善を含む外来や手術棟など建物整備（二期工事）を目指し、さらに具体的な検討をする予定です。

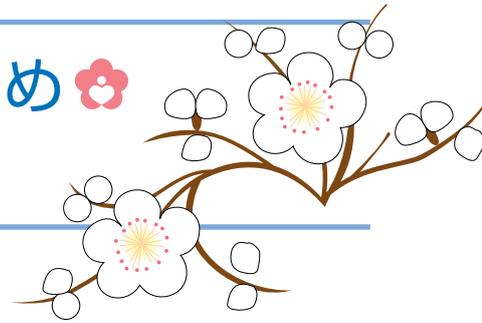
我が国は高齢化の時代を迎え、当院の持つ呼吸器疾患や神経疾患医療の機能をますます発揮できると考えています。肺がんはむろん、高齢者の予後やQOLに大きく関係する慢性閉塞性肺疾患（COPD）や肺炎などの呼吸器疾患は確実に増加していきます。またパーキンソン病などの神経難病や認知症の増加も避けて通れません。第一線で地域医療を支えておられる開業の先生方のお力はもちろん、保健・

福祉行政とも連携をとりながら地域の医療に貢献していきたいと考えています。

当院は平成27年度の新しい取り組みとして、4月から「通所事業所 しらうめ」を開設いたします。地域で生活されている重症心身障害児（者）の方を対象に、日中活動の場を提供して、短期（レスパイト）入所事業と併せて、障害児（者）やそのご家族に対する支援を充実させてまいります。この通所事業では、当院の障害者医療の専門性を活かして、医療ニーズの高い方を中心に受け入れていく予定です。また障害者総合支援法に基づく療養介護サービス事業をALSなどの神経難病にも対象を拡大する予定です。在宅の療養が困難な方を対象に、療養生活をより豊かにしていければと考えております。

医療を巡る環境や、その基本となる政治・経済状況が今後どう変化していくか不透明な時代ですが、地域の先生方との連携をいっそう強化して、より良い医療の提供をめざしてスタッフ一同力を合わせて参ります。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

平成27年4月 通所事業所 しらうめ が開所します!



療育指導室 児童指導員 藤井 鈴子

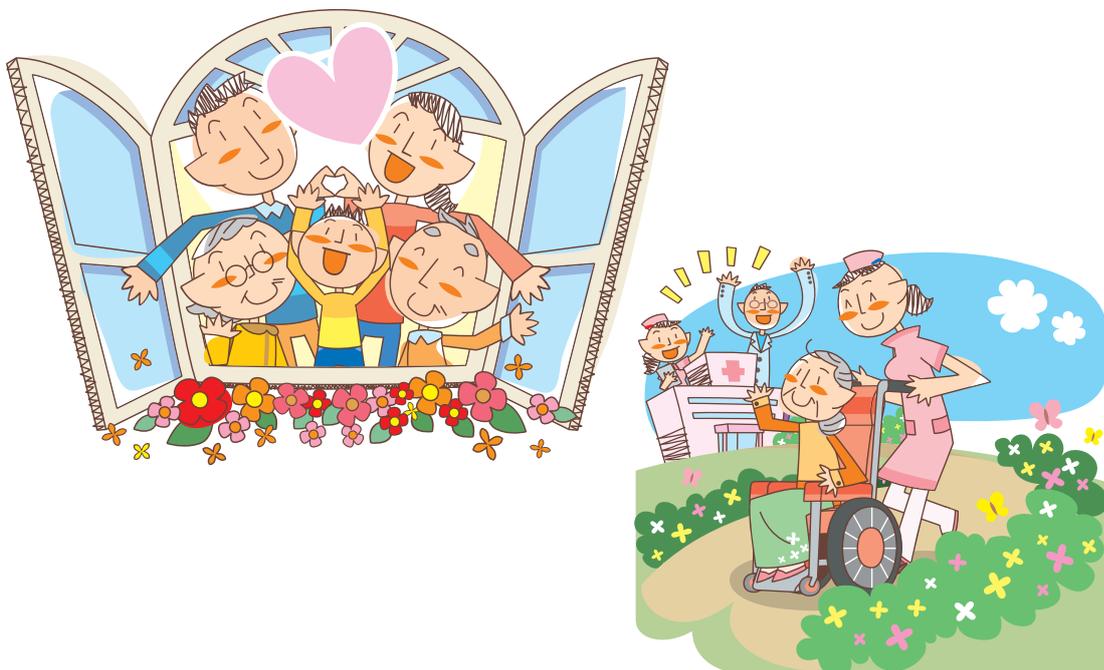
新年あけましておめでとうございます。皆様には、平素より重症心身障害児（者）病棟の運営にご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。

さて今回は当院敷地内にて、この春より開所する通所事業所「しらうめ」について、紹介させていただきます。

近年、濃厚な医療的ケアを必要としながらも在宅での生活を選択し、地域で様々なサービスを利用しながら毎日をご過ごしておられる重症心身障害児（者）の方々が増えています。当院では、そういった社会背景を受け平成16年度より、在宅重症心身障害児（者）及びそのご家族の支援を目的とした「短期入所事業」への取り組みを継続してきました。短期入所を利用いただいている方々のご家族からは、当院に対する希望やご意見、そしてご相談をたくさんいただきます。そのやりとりのなかで「支援学校卒業後の我が子の進路」に関しては、みなさん特に悩んでおられることがわかりました。支援学校卒業後は、地域の「生活介護事業所」等を次のステップとして選択し過ごす方が多いのですが、濃厚な医療的ケアを必要とする重症心身障害者の方の受け入れを可能とする事業所や、かつ安心して過ごせる場所はまだまだ少ない現状にあります。

そこで、当院が有する障害児（者）医療に対する専門性を活かして新たに「通所事業（生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス）」の立ち上げをすすめることとなりました。現在、開設準備室一同、知恵を出し合い、また、すでに地域に根ざした活動をされている事業所さんにもご協力頂きながら、準備に勤しんでいるところです。どんなに重たい障害を持っていても、楽しみをもって通っていただけるような、温かみのある生活の場を目指しています!

2月には、事業所内覧会を、3月にはプレオープンを予定しております。当院ホームページにも詳細を掲載していますので、是非ともご覧いただければ幸いです。今後も地域社会とのつながりを大切にしながら、より一層、当院で過ごされている重症心身障害児（者）のみなさんの生活が彩り豊かな毎日となることを目標に、日々取り組んでまいります。



当院の包括的リハビリテーションの紹介

呼吸器科 医師 角 謙介

当院では、COPD(慢性閉塞性肺疾患)や肺結核後遺症などの慢性呼吸器疾患の方への包括的呼吸リハビリテーションに取り組んでいます。

医師や看護師・理学療法士・作業療法士のみならず、薬剤師・栄養士といった多職種が互いに連携をとりながら、リハビリテーション、栄養改善や服薬指導、生活支援などを行っていくことによって、運動能力の改善だけでなく日常生活動作の改善も図り、患者さんのQOL(生活の質)向上を目指しています。

COPDなどさまざまな肺の病気で呼吸機能が低下すると、息切れが起こります。息切れが強いと普段の生活で動くのがおっくうになり、筋力が低下するため、動いたときの息切れや足のだるさが余計にひどくなるという悪循環が起こります。

包括的呼吸リハビリテーションは、こういった患者さんに、より良い日常生活を送っていただくための治療です。

理学療法士・作業療法士による呼吸筋のリラクゼーション・下肢筋力の強化や、自宅での状況に合わせたADLの指導等に加えて、薬剤師による服薬指導、吸入手技の確認や確実な内服方法の検討、栄養士による患者さんに合わせた摂取カロリーや栄養素の検討、慢性呼吸器疾患によって、るいそう(痩せ)傾向となり筋肉量が落ちてしまう患者さんに対する補食の追加を含めた栄養指導など、様々な分野のスペシャリストがその専門性を活かして、患者さんのために力を尽くしています。

また、西病棟4階で週1回、包括的呼吸リハビリテーションカンファレンスを行っています。その週の患者さんの病状や心理面の変化、リハビリの進行具合や、薬剤管理状況から体重変化も含めた栄養状態まで、詳細に検討し、治療の方向を決めています。

当院ではすでに10年以上このような取り組みを続けており、4~8週の入院で一定の効果が上がり、退院後も健やかな日常生活を続けておられる患者さんが大勢いらっしゃいます。

慢性呼吸器疾患の患者さん方のQOLを高める薬物治療、HOT(在宅酸素療法)やNPPV(在宅人工呼吸)の導入や栄養指導など、お気軽に当院呼吸器科に御相談ください。包括的呼吸リハビリテーションのための入院も含めて、患者さんのための最善の方法を検討させていただきます。

担当医は、坪井・角・山下です。

どうぞよろしくお願いいたします。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

的確で誠実な医療を心がけております

水野クリニック

院長 水野 寿 先生・医師 水野 孝道 先生

内科・小児科



平成19年1月、父からの継承に伴い水野クリニックとして開院しました。患者さんの話をよく聞くこと、ご高齢の方が多く人生の先輩として敬意を持って接すること、勤務医時代に担当した糖尿病外来、上部消化管内視鏡、腹部超音波検査等の経験を活かして的確で誠実な医療を提供すること、専門的医療が必要な疾患を見逃さずに高次医療機関に紹介することをクリニック全体として心がけています。糖尿病や脂質異常症については院内迅速検査を導入し、患者さんの生活習慣の改善がその場で結果として実感していただけるよう努めています。

南京都病院には、日頃から呼吸器科や神経内科を中心に専門的な診療をお願いすることも多く、大変お世話になっています。CTやMRIの画像検査では日程の無理を聞いていただいたり、救急疾患が判明した際に迅速に対応していただき感謝しています。今後も連携を大切にしていきたいと考えています。

南京都病院には、日頃から呼吸器科や神経内科を中心に専門的な診療をお願いすることも多く、大変お世話になっています。CTやMRIの画像検査では日程の無理を聞いていただいたり、救急疾患が判明した際に迅速に対応していただき感謝しています。今後も連携を大切にしていきたいと考えています。

- 京都府綴喜郡井手町多賀内垣内10
- TEL 0774-82-2262
- FAX 0774-82-2299

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後 4:30~7:00	○	○	○	×	○	×	×

- 休診日 日・祝、木・土の午後



訪問看護ステーション スターライフ

訪問看護

居宅介護



初めまして。私たち「スターライフ」は平成12年4月に旧木津町に開設しました。看護師6名、理学療法士・作業療法士6名、言語聴覚士2名の体制で木津川市、相楽郡全域、奈良県北部、綴喜郡全域、京田辺市、城陽市、宇治市、京都市(伏見区)を訪問しています。緊急時には、携帯電話による24時間連絡体制をとり、365日必要に応じて主治医連携緊急訪問を行っています。

当事業所は、利用者様・ご家族様と会話する時間を大切にしています。会話を通して不安や疑問が安心に変わるようにご希望を聴き、個々の生活環境やペースに合わせた日常生活を維持できるよう関わっています。疾患の重症度に関わらず、利用者様と一緒に在宅での目標を立て、必要な援助を必要な時期に行うことで「その人らしい生活」を継続できるよう努めています。また、当事業所には多職種の医療スタッフが揃っており、各々の職種が連携を図り、利用者様の病状・日常生活動作・摂食機能等を総合的にサポートさせていただいております。スタッフ一同、皆様と笑顔でいられるよう援助していきます。今度とも、宜しくお願致します。

- 京都府木津川市吐師野間11-1
- TEL 0774-73-4880
- FAX 0774-73-4882
- 営業日・営業時間
月～金 午前8:30～午後5:00
- ※(祝日・年末年始を除く)



いろいろな学会でたくさん賞をいただきました

副院長 坪井 知正

秋は学会シーズンです。南京都病院のスタッフもいろいろな学会に参加して、発表したり聴講したりして、勉学に励んでいます。昨年は例年より実りの多い年になりました。

南京都病院は呼吸リハビリテーションに力を入れています。平成 26 年 10 月 24 日～ 25 日に奈良市で開催された第 24 回呼吸ケア・リハビリテーション学会に、医師、看護師、リハビリテーション科スタッフがたくさん演題を発表しました。

坪井が、京都大学および関連病院非侵襲的呼吸管理グループを代表して、恩師の大井元晴先生らと共に、第 3 回呼吸ケア・リハビリテーション学会賞をいただきました。呼吸生理学を学び、睡眠時無呼吸症候群に対する CPAP 療法や慢性的に呼吸が苦しい人に対するマスクを用いた人工呼吸 (NPPV) を本邦で初めて導入し、英文論文 100 編にも及ぶ様々な研究をして、さらにこれらの治療法を全国的に普及させたことが認められての受賞でした。



呼吸器科の角謙介医師は優秀演題賞を受賞しました。「慢性呼吸不全患者さんが睡眠薬をどのように服用しておられ、呼吸状態にどのような影響があるのかを分析した研究を発表しました。幸運にも優秀演題賞に選出され、閉会式で学会長の奈良県立医大・木村弘教授より表彰状を拝受しました。身に余る光栄ですが、今後の期待も込めた受賞であると考え、更なる精進への思いを新たにいたしました。」

西病棟5階の岩満加奈看護師は天理よろづ相談所病院や神戸医療センター中央市民病院といった一線の医療機関の医師も発表したセッションで座長推薦演題に選出され研究が論文化されることになりました。「取り組んできたネーザルハイフローを用いた終末期看護について発表しました。学会での口述発表は初めての経験でとても緊張しましたが、病院スタッフの応援を受けて、自信を持って発表することが出来ました。また、とても光栄なことに座長推薦演題に選出していただきました。今後の看護に活かしてまいりたいと思います。」



小児科の徳永修医長は、小児結核の専門家として全国から講演依頼が殺到していますが、第 47 回日本小児呼吸器学会で「BCG ワクチン接種後コッホ現象診断における QFT-3G 上清中 IP-10 定量測定の有用性に関する検討」の口演発表が優秀演題賞候補になりました。「他 4 題と共に優秀演題賞候補に選ばれました。残念ながら優秀演題賞 (1 題) には選出されませんでした。当院小児科において専門的に取り組んでいる分野の一つである小児結核診療・小児呼吸器診療に関する臨床研究及び情報発信に努めて参りたいと思います。」

南京都病院では地に足の着いた丁寧で親切な医療を提供していくと同時に、様々な臨床研究を展開し積極的に世界へ発信し続けられるよう努力を続けてまいりたいと考えております。

地域医療連携室からのご挨拶

副院長(地域医療連携室室長) 坪井 知正
地域医療連携係長 馬場野 紀子

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、地域の皆様には大変お世話になりありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、地域連携の必要性は年々増加し、平成25年度から副院長の坪井が地域医療連携室室長を兼務し、地域の開業医の先生、病院、行政機関や福祉施設の方々との連携を図る事により、南京都病院が地域住民の皆様のお役に立てるよう努力しております。

まずは、医院に訪問させて頂き、地域の開業医の先生方からご要望を伺ったり、顔の見える関係作りを行っています。更に、地域連携フォーラムの開催や、保健所等との共催による神経筋難病研修会や結核研修会の開催など知識や情報の発信も行っています。このように、地域の皆様との連携が持てることを嬉しく思いながら、日々業務を行っています。

また、地域包括ケアが求められる中、当院の果たすべき役割を考え、地域の先生・病院・各種施設とのさらなる連携強化に向けて、病院職員一丸となり取り組んで参りますので、今後ともご指導ご教示の程、よろしくお願い申し上げます。



交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*...各駅より
送迎車あり

診療科のご案内

- 内科
- 小児科
- リハビリテーション科
- 呼吸器科
- 外科
- 放射線科
- 神経内科
- 整形外科
- 麻酔科 (入院患者のみ対象)
- 消化器科
- 呼吸器外科
- 歯科 (入院患者のみ対象)
- 循環器科
- 皮膚科
- 耳鼻いんこう科 (休診中)

独立行政法人国立病院機構

南京都病院

〒610-0113 城陽市中芦原11番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

地域医療
連携室

- ダイヤルイン 0774-52-0114 (内線 231)
- 直通 FAX 0774-58-0270
- E-mail renkei@mkyoto.hosp.go.jp